



りのアトラクションがあり、またレストラン内を参加者が手を取り合ったダンスで大いに盛り上がった。バンケットの恒例行事として、5名の若手の研究者にポスター賞が発表された。賞状の他に副賞として Springer から図書券が贈られた。日本からの参加者は、Plenary lecture をされた鳥居肇教授（静岡大）（録画講演）、keynote lecture の阿尻雅文教授（東北大）、Oral talk の細川伸也教授（熊本大）、神崎亮准教授（鹿児島大）、梅林泰宏教授（新潟大）、韓智海助教（新潟大）、森 寛敏教授（中央大学）、山口敏男教授（福岡大、中国科学院青海塩湖研究所）、Poster 発表の黒木菜保子助教（中央大学）、渡辺啓介助教（福岡大）・照山友登 M2 学生（福岡大）、細川教授の奥様の 12 名であった。第 39 回溶液化学国際会議は、2025 年 9 月 7 日—12 日において、チュニジア共和国のモナステイル(Monastir)市、Jalel Mhalla 教授（Monastir 大）と Adel Megriche 教授（El Manar 大、チュニジア化学会副会長）の両委員長のもとで開催される。また、国際溶液化学組織委員会にて第 40 回溶液化学国際会議の招聘プレゼンがなされ、2027 年 9 月にイタリアのローマ市で Paola D'Angelo 教授の実行委員長のもとで開催されることが決定した。以上。